

言うことを聞くのは甘やかし？

親が「子供の言うことを聞く」ことは、子供を甘やかすことで、子供のためにならないのではないか、と考えがちです。子供の「言うことを聞く」ことは、子供の「いいなりになる」という意味だととらえているため、しつけ面で良くないと判断してしまいがちです。

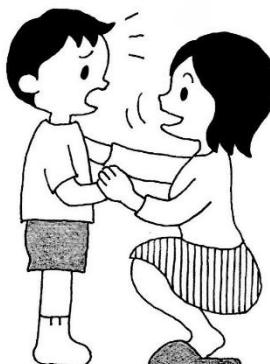
でも、それは少し違います。**子供の言うことを聞く**というのは、**子供の言っていることに耳を傾ける**ということなのです。つまり**「子供の主張を聞く**ということを示していて「言っていることをそのまま受け入れる」ということではないのです。これを区別していないと、子供とのコミュニケーションがうまくいきません。相手が何を思っているのか、何を要求したいのかを聞いてみないと分からぬということです。相手の言うことを正確に聞くことが、コミュニケーションのスタート地点となるのです。

例えば、親子でスーパーに買い物に行ったとき、「ガチャガチャ買って！」と子供がねだったとします。いつも子供の要求のままに、「いいわよ」と買い与えるのは「甘やかし」となります。これをくり返していると、子供は要求を聞いてもらおうと泣いたり騒いだりするかもしれません。「ダメでしょ」と一方的に親が禁止したり正論で言い負かそうとしたりすると、子供は反発し、不満をためていきます。

では、どのような対応すればよいのでしょうか。

まずは、「ガチャガチャを買って欲しいのね」と、子供の気持ちをそのまま受け止めます。子供が「欲しかったガチャガチャがこの前は取れなかったから買って欲しい」と反応したら、「そうか、欲しかったものが取れなかったから買って欲しいのね」と、くり返して聞きます。そして「でも、この前に買ったばかりだし、月に一回と約束したから、今日は買わない日よ」と、親が買えないことを説明します。子供は簡単に納得しないかもしれません、自分の言いたいことを聞いてもらったことで、親の

話にも耳を傾けるようになり納得しやすくなります。そして、子供なりに考えていろいろな案を出してくることもあります。



社会情勢の変化に伴い、親子を取り巻く環境も複雑になりました。子供にスマホを持たせるかどうか、ゲームする時間はどのくらいにすればいいのか等、一つ一つのことについて親子で考え、話し合いをしていかなくてはなりません。「子供の言うことを聞いて理解してから対応する」というコミュニケーションのあり方は、子供が中学生になっても高校生になっても変わることなく有効な方法となるでしょう。

参考資料：お母さん「あとあとで」と言わないで

近藤千恵著